



実現に向けて

人類が安定してこの世界に暮らし続けるために2030年までに達成すべき具体的目標「SDGs」。銅業界が「今取り組んでいる」「SDGs」を業界を構成するフィールドごとに紹介したい。

日本電線工業会 会員各社による 持続可能な社会を支える取り組み

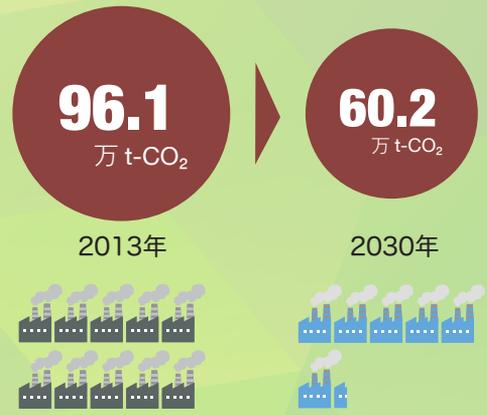
一般社団法人日本電線工業会は、1948年に設立された「電線工業クラブ」を基に、1951年に「電線工業会」、1957年に「社団法人日本電線工業会」に組織変更。2012年に一般社団法人に移行した団体。電線を製造している事業者を会員としている。会員社でも大手企業と中小企業で取り組み方に差異はあるが、団体としてCO₂排出量削減目標を設定し取り組んでいる。



1 CO₂ 排出量削減目標の設定

日本電線工業会では、2022年度に、メタル（銅・アルミ）電線と光ファイバケーブル製造にかかわるCO₂排出量合算値が2030年度に60.2万t-CO₂（2013年度比で37.4%削減）とする目標値を設定している。2022年度の進捗率は2013年度比で88.8%で堅調とのこと。今後の取り組みに期待したい。

CO₂ 排出量合算値の削減



2 会員各社の取り組み状況

日本電線工業会会員社（115社 1団体）では、SDGsの取り組みを各社が公表している（2023年12月現在）。17の目標のうち、「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を掲げる社が最も多く29社、続いて、「9 産業と技術革新の基礎をつくろう」が28社、「12 つくる責任 つかう責任」と「13 気候変動に具体的な対策を」が各26社、「8 働きがいも経済成長も」が23社となっている。

目標に向けた具体的な取り組み事例は各社さまざま。多くの会員社で取り組んでいる太陽光発電、製造工場内の自動化などについては、その代表例としてSWCC株式会社（取材時は昭和電線ケーブルシステム株式会社）愛知工場に取材した動画「【DENSEN TV 石山蓮華の電線探訪！】 持続可能な社会を支える『電線』」（2022年10月に公開）で紹介している。



<https://www.discoverydensen.jp/special/densentanbo.html>